

「1年間の思いを！」

校長 星野 貞邦

校庭の木々も芽吹き始め、春の足音が聞こえはじめる季節になりました。

1年生は、今年度より始まった館岩自然の教室を無事に終えることができました。2年生は、あと一か月で最上級生になり岸中学校を引っ張って行くこととなります。3年生は、卒業まであと2週間余りとなりました。3年間学んできた岸中学校での思い出を胸にそれぞれの夢や希望に向かって旅立ってください。すばらしい卒業式になることを期待します。

さて、この1年間、学校だより等で君たちに伝えたい、いろいろなことを述べてきました。今回は、それらを幾つかを再度ご紹介します。

4月号では、今年度のスローガンを「希望の登校・潤いの活動・満足の下校」について書きました。「希望の登校」とは、生徒一人ひとりが、朝登校する時、今日は勉強や部活動ではこんなことができるようになりたい、友だちとはこんな話をしようなど、明るく元気に希望をもって登校し、「潤いの活動」とは、人間らしい思いやりや温かみをもって、授業や行事、部活動、休み時間での友だちとのふれあいなど充実した活動を送り、下校する時、今日は授業でこんなことが分かった、部活動でこんなことができるようになった、友人との活動の中で、この人の持っている素晴らしさに触れることができたなど、その日の学校生活の中で成就感や充実感を持って、満足して下校できる学校を目指すと言うことでした。生徒の皆さんは、「希望の登校・潤いの活動・満足の下校」が出来たでしょうか。

5月号では、「夢や希望（目標）をもつこと」について書きました。ヨーロッパの話として、森に迷い込んだ二人の男の話です。一人の男は、出口を目指して黙々と歩いた。しかし何日歩いても出口は見つからず、さまようばかり、男がふと周りを見回すと、そこは道に迷った最初の場所であった。別の男は、あわてず、じっくり考えて、空を見上げて目標の星を見つけ、その星を頼りにしながら、方向を見定めて歩き、やがて大きな森から抜けることができた。皆さんは、中学校卒業後もこれから先、何十年の未来に向けて歩いていくこととなります。「人生」という「森」を歩く上で重要なのは自分の目標をきちんと見つけることだと思います。先ほどの男の話で言えば、自分を照らしてくれる星、道しるべとなる星を見つけることです。

6月号では、「岸中 前へ」ということで、明治大学のラグビー部監督として人生をラグビーに捧げた故北村忠治監督の言葉を紹介しました。明治大学が勝てなかった時代、マスコミなどから「時代遅れ」「化石」とたたかれた時も「逆境でこそ基本が大切」と言って、基本に忠実な戦略を通し、「明治 前へ」と言って明治のスタイルを貫き通しました。北島監督は本の中で次のように語っています。『長い人生だから、数多くの障害物にぶつかるだろう。かわすことによって乗り越えられる障害物ならいい。しかし、本当に深刻な問題に直面した時は、体当たりで乗り越えていくしかない。そこには常日ごろから、何事にも体当たりで進むように心がけていなければならないと思うんだ』、私は、「前へ」という単純明快な言葉の中に人生の方向性を示している

この言葉が大変好きになりました。

10月号では、世界最高性能の永久磁石鋼（K S鋼）を開発し、「鉄の神様」と言われた本多光太郎先生の言葉として「今が大切」ということについて書きました。「今が大切」という言葉は、勉強でも、部活動でも、行事でも、遊びでも、まず、自分の今やるべきことに集中して、今の時間を大切にすることだと私なりに解釈しています。人生でも仕事でも、その時その時の「今」の積みかさねの結果でしかありません。今を大切にしなければ、明るい未来は開きようがありません。勉強でも、人との付き合いでも、今を大切にすることによって、充実した人生が築かれると思います。

11月号では「生きるということ」について、小児科医として、病院の小児病棟で勤務している教え子の話を伝えました。彼は医者として、生きたくても生きることができないことの悲しさ、虚しさ、残酷さ、父親、母親や家族の気持ち、子どもの気持ちなど、考えさせられることがたくさんあることを知ったそうです。このような経験を通して教え子の彼は、「今を大切に生きなければ」と強く感じるのは、幼くして亡くなる子どもたちからの頑張って生きようという思いだけではなく、無邪気に喜んでいる子ども、日頃泣けない家族の人たち、そういうたくさんさんの思いが満ち溢れている小児病棟の中にいると、しっかりと生きていかなければ、親から与えられたこの命を大切にしなければと日々感じるようになったと言っていました。

12月号では「きれいな学校」として、「人が環境をつくり、環境が人をつくる」という言葉について書きました。自分たちにとってよい環境をつくるのが、自分を成長させるためには大事なことで、自分が生活し、勉強する場をきれいにしようと努めている生徒は、心もきれいで、自分を高めよう、よい環境をつくらうと心がけていることが伺えるからです。そして、このような生徒は、例外なく勉強に集中して、落ち着いた生活態度で学校生活を送れていることが多いと思います。ですから「環境が人をつくる」と言われるのだと思います。

1月号では、新年を迎えるにあたって、「岸中生、大志を抱け」という言葉を生徒の皆さんに送りました。中学校時代に将来の夢や希望（目標）を育み、「やるべきことは何か、やるべき時はいつか、やるべき量はどれだけか」を見つけ出し、生徒一人ひとりが自己実現に向かって一杯頑張りたいと願っています。

私が、この1年間述べてきたことの一部を載せさせていただきました。少しでも生徒の今後生き方の指針となればと思います。

最後に、保護者・地域の皆様方には、今年も学校の様々な教育活動にご支援、ご協力をいただき誠にありがとうございました。来年もよろしくお願い申し上げます。